

## 豚熱県外発生地への防疫措置派遣報告(群馬県) ～酷暑、コロナ禍での豚熱防疫措置～

夏真っ盛りの8月7日、群馬県桐生市の約6,000頭飼養の養豚場で国内71例目の豚熱の発生がありました。発生3日後に未着手の繁殖豚約500頭の殺処分のための獣医師派遣要請があり、2日間(8月15、16日)の防疫作業に行きました。

滞在中は、くもり時々雨、気温25.0℃以下と肌寒い位の天気でした。

午前4時に群馬県庁前に集合し、市民総合センターまで約1時間バスに乗車し、そこで健康診断を受け、防護服等を着用し、再度バスで農場に向かいました。農場は赤城山裾に位置した林に囲まれた谷地にありました。

殺処分は、20名(家畜防疫員2名+群馬県職員18名)を1班として、2班体制で実施しました。繁殖豚の前に哺乳豚を炭酸ガスにより殺処分しました。班員が、母豚の乳を健気に飲んでいの子豚を引き離すのに戸惑う姿が印象的でした。

繁殖豚の殺処分は、1頭ずつ出荷用ピットに追い込まれた豚を電殺機で失神させた後、心臓内に薬液を注入するという手順で行いました。その後、班員により、四肢へのロープ懸け、フォークリフトによる吊り上げ、フレコンバッグへ投入、ストックヤードに運搬という行程の作業を約6時間行いました。

発生直後は、24時間体制で行っていたそうですが、熱中症で数名が倒れたため、その後の日中作業は、中止されました。

また、群馬県では、8日に新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置が適用

されたため、豚熱の防疫措置を行う従事者に対しても十分な配慮があり、スタッフの苦勞と努力に敬服しました。

疫学チームの現地調査によると農場周囲では、2月に約1.1km地点で、4月には約2km地点で野生イノシシの感染が確認されており、発生があった農場は、飼養衛生管理基準の遵守が比較的守られていたものの発生があったウインドレス式の離乳舎では、ネズミが確認されていたということです。

群馬県は、豚の飼養頭数が約63万頭と全国4位であり、県庁所在地の前橋市は、「TONTONのまち まえばし」として、豚肉料理コンテスト「T-1グランプリ」や公認キャラクター「ころとん」等、豚を通じて、畜産・観光・教育等の幅広い取り組みをされています。今回の発生は群馬県内で3例目の発生であり、その痛手はさぞ大きかったことと思います。

今回の派遣を通じて、家畜伝染病の脅威を改めて実感するとともに国内の清浄化の実現には、現時点では、地道な取組を積み上げていくしか方法はなく、家畜衛生行政の責務の重さを再認識している次第です。

(三溝)